

資料2 希望番号取得者の新たな決定方法 の方向性について

これまでの検討経緯

令和7年5月12日 第5回検討会 議事5 希望番号取得者の新たな決定方法の方向性における主なご意見

- 抽選対象希望番号の当選者は、番号の払底対策の観点からも1週間に4者を限度とする運用としているため、中々当たらないという声もあるところ。寄付金を募って優先的に枠を設ける案は、マラソン大会の例を参考にすればユーザーに対して合理的な説明ができるだろうし、ユーザーアンケートでも寄付金活用に賛成する声も多い。一方で、交付手数料は実費を勘案して設定することとされており、公益目的に活用はできない。現行の希望番号制度において、全国で統一的に抽選対象とする番号と地域毎に人気が高く個別に抽選対象としている番号が存在しているところ、地域別の抽選対象番号もどのように取り扱うか考慮していく必要がある。
- 抽選倍率を下げて、真に希望する方ができるだけ早く入手できるようにすることが目的であれば、寄付金の設定も一つの手段になるとと思うが、寄付金を取る以外にも抽選を毎日実施するなどの抽選の仕組みの変更といった手段も考えられるのではないか。寄付金の設定のようにお金で抽選倍率を下げようとすると、お金持ちを優遇する制度として受け取られかねない。抽選倍率を下げるために寄付金の設定とする場合にはその理由をユーザーにしっかりと説明する必要があるのではないか。
- 申込時ではなく当選時に寄付金を必要とした場合、抽選倍率はあまり下がらないのではないか。例えば、抽選倍率が1倍だと1,000円、9倍だと9,000円といったように倍率に応じて寄付金額を上げていく方法ならば、抽選倍率の低いナンバーを選んで申し込むインセンティブになる。
- ホームページで抽選対象番号が公表されているので、どうしても抽選対象番号を取得したい人はいくらでも寄付をすることが想定される。そうでない人に対しては、抽選対象番号の当選時に寄付金を必要とした場合、抽選倍率自体はそこまで下がらないのではないかと思う。抽選倍率を下げたいなら他の方法についての議論も必要になると思われる。
- 抽選対象番号に寄付金を設定しようとした場合、ユーザーから寄付金を一時的に受け取る立場となるディーラーの理解を得る必要があるが、抽選倍率に応じて寄付金額を上げていく方法とする場合は、理解を得るためのハードルがさらに高くなると思われる。
- 抽選対象番号に寄付金を設定しようとした場合、お金持ちが何でもお金を払えば好きなことができると受け取られないよう説明が必要。
- 希望番号を取得するために納める寄付金の希望額調査は、寄付金を支払う意思のある半数の回答者を対象としており、残り半数は寄付金無しでの抽選を希望しているとも考えられるのではないか。一方、応募の時は払わないとなると、高倍率であっても実際に払う可能性が低くなるため、高倍率に集中する番号には寄付金額を設定しても抽選倍率の低減に効果が無いのではないか。
- 希望番号制度において抽選対象の番号とそうでない番号があるのであれば、交付手数料との整理が必要になるが、抽選番号が欲しい人には抽選料として一定以上の比較的高額と思われる寄付金を設定する方法も考えられるのではないか。

令和7年6月24日 「図柄入りナンバープレート等に関する検討会」 中間取りまとめ（抄）

3. 2 人気がある希望番号の新たな取得方法について

本検討会において、諸外国の事例や他の抽選制度を参考としつつ、人気がある番号の倍率を低減する方法について検討を進め、令和7年度内目途に結論を得ることを目指す。なお、検討にあたっては、抽選番号を希望する者に対し一定額以上の寄付金を求める方法に限らず、抽選番号のナンバーの払出し枚数を増やす等の方策も幅広に検討することとする。

- 希望番号制は、自動車登録番号のうち一連指定番号をユーザーが選択できる制度であり、分類番号の2桁から3桁化等に伴い、平成11年5月に登録自動車に導入（一部地域は平成10年5月に先行導入）。同様に平成17年1月に検査対象軽自動車に導入。今後、令和8年度中に二輪車に導入予定。
- 人気が高い一部の番号は毎週1回抽選を実施し、当選者のみが取得できる。
- 自動車登録番号は地域名、分類番号、平仮名等、一連指定番号により構成されていることから、一地域において分類番号の数×平仮名等の数の一連指定番号の払出ししが可能。
- 平成29年に分類番号に新たに10種類のローマ字(ACFHKLMPXY)を追加したことにより払出し可能な一連指定番号の数が増加。

<自動車登録番号標(車両番号標)>

図柄(背景)



- 地域名… 自動車の使用の本拠の位置を管轄する運輸支局、運輸監理部又は自動車検査登録事務所を表示する文字
全138地域名のうちご当地名は51
- 分類番号… 自動車の種別及び用途による分類を表示する最初の字がアラビア数字であって、その他の字がアラビア数字
(0~9)若しくはローマ字(ACFHKLMPXY)若しくはこれらの組み合わせである3字
<登録自動車の例> 最初の字 1…トラック 2…バス 3…乗用車 4,6…小型トラック 5,7…小型乗用車
8…特種自動車 9…大型特殊自動車 0…大型特殊自動車(建設機械)
- 平仮名等… 自動車運送事業の用に供するかどうかの別等を表示する平仮名
<登録自動車の例> 自家用:さすせそたちつてとなにぬねのはひふほまみむめもやゆらりるろ 自家用(レンタカー):れわ
事業用:あいうえかきくけこを 等
- 一連指定番号… 4けた以下のアラビア数字

- 自動車のナンバープレートは車種に応じて、自家用・事業用の別が2種類、サイズが大板・中板・小板の3種類、形式がペイント式・字光式・シート式(図柄ナンバープレート)の3種類が存在。
- 更に図柄ナンバープレートについて、交付中のデザインが76種類(地方版73種類、全国版1種類、特別仕様2種類)、寄付金あり(フルカラー)・なし(モノトーン)の別が2種類存在。
- 図柄ナンバープレートについては、登録自動車と軽自動車(自家用)が交付対象とされ、1種類の図柄につき10種類のナンバープレートが存在。
- 希望番号制については、全ての登録自動車と検査対象軽自動車のうち自家用(レンタカー及び軍人軍属私有車両を除く)が対象となっている。

車種		登録自動車				二輪の小型自動車		検査対象軽自動車		二輪の軽自動車	
自家用・事業用の別		自家用		事業用		自家用	事業用	自家用	事業用	自家用	事業用
形式	登録車自家用 中板の一例	大板	中板	大板	中板	小板	小板	中板	中板	小板	小板
ペイント式	・品川599・ さ20-46	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
字光式	・品川599・ さ12-34	●	●	●	●	—	—	●	●	—	—
シート式	寄付金あり ・品川599・ さ20-46	●	●	●	●	—	—	▲	—	—	—
	寄付金なし ・品川599・ さ20-46	●	●	●	●	—	—	▲	—	—	—

●:あり ▲あり(一部対象外) —:なし

赤枠:図柄ナンバープレートの対象 青枠:希望番号制の対象

- 抽選対象希望番号について、1,7,8,88,333,358,555,777,888,1111,3333,5555,7777,8888の14通りを全国共通で設定しており、最大で神戸の39通りまで地域により異なる。(自家用の普通乗用自動車の例、以下同じ。)
- 最高倍率については地域により1.25倍から30.86倍まで差が生じているが、最低倍率については0倍から0.41倍ほとんど差がなく、1倍を下回る番号も存在している。

令和7年3月～4月の2ヶ月間の自家用の普通乗用自動車(3ナンバー)の抽選実績

地域名 (一例)	抽選対象番号の数	全ての抽選対象番号の期間平均倍率	最高倍率(期間平均)とその番号	最低倍率(期間平均)とその番号	倍率(期間平均)が1を下回る抽選対象番号の数
札幌	16	2.57倍	11.19倍 1	0.35倍 5555	7
宮城	13	0.81倍	2.56倍 1	0.25倍 3333,5555,7777	10
新潟	13	0.56倍	1.25倍 8	0.25倍 5555	12
横浜	36	2.99倍	16.86倍 1	0.39倍 5555	11
名古屋	36	4.86倍	24.28倍 1	0.41倍 7788	10
神戸	39	3.56倍	30.86倍 1	0.36倍 3333	10
広島	13	1.28倍	5.61倍 8	0.25倍 777	10
愛媛	13	0.80倍	1.78倍 8	0倍 777	10
福岡	16	2.22倍	10.22倍 1	0.29倍 3333	8
沖縄	13	0.84倍	1.75倍 8	0.25倍 5555	9
平均	20.8	1.64倍	10.64倍 -	0.28倍 -	-

注:令和7年3月～4月時点の全国共通抽選対象番号は上記14通りから358を除いた13通り

出典:一般社団法人全国自動車標板協議会

課題及び方向性

①当選個数増加と番号払底の関係

人気のある抽選対象番号の当選倍率を低減させるため、抽選対象番号の当選個数を増加させる方法が考えられる。一方で当選個数の増加は、当初予定していた番号払底時期を早めることとなるため、番号払底対策を並行して検討する必要がある。

②抽選対象番号及び抽選個数の取扱い

人気のある抽選対象番号及びその当選倍率は、地域により異なる状況にある。抽選対象番号は地域により異なる運用をしているところ、当選個数についても当選倍率に応じて設定するなど地域により異なる運用とすることが考えられる。また、倍率が1倍以下となるような番号まで抽選番号とならないよう、運用することも考えられる。

<自家用の普通乗用自動車(3ナンバー)の例>



一地域において分類番号の数(400)×平仮名等の数(29)=11,600個の一連指定番号の払出しが可能

【参考】希望番号の交付枚数の推移

